

地下構造特性調査(追加調査)のボーリング調査に伴う モニタリングポスト等への影響について

平成 21 年 11 月 26 日

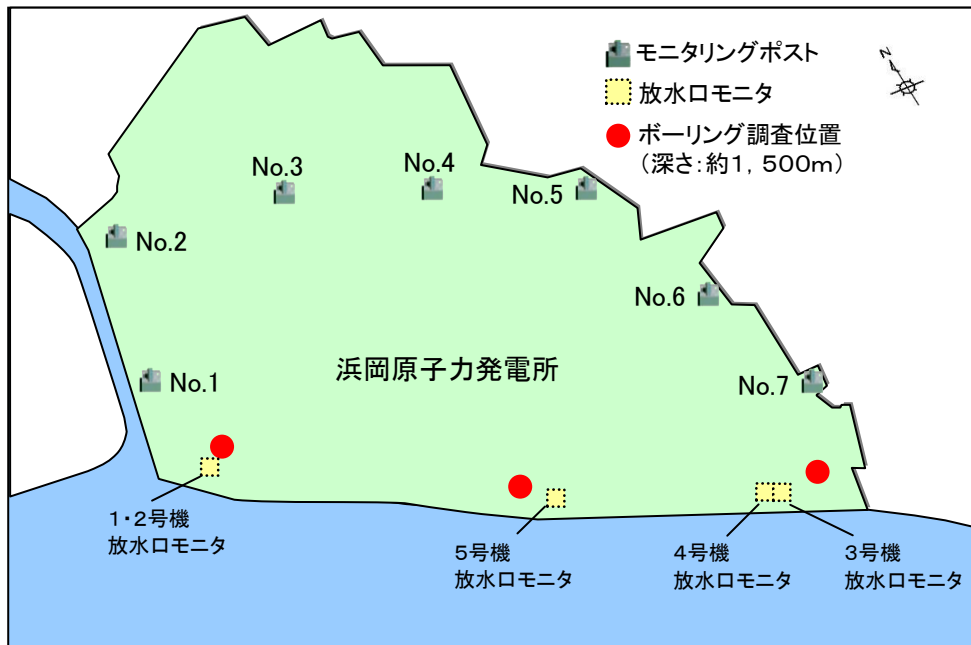
当社は、地下構造特性調査※¹(追加調査)のうちのボーリング調査※²の一環として、11月27日から密度検層※³を行うこととしています。

この密度検層では、ボーリング孔(3本)に放射線源を入れて、孔周辺の地盤の密度を測定します。放射線源の影響で、当社ホームページ上にリアルタイムで公開している、モニタリングポスト※⁴および放水口モニタ※⁵のうち、ボーリング孔近傍のものゝ指示値が、一時的に上昇する場合がありますので、あらかじめお知らせいたします。

(当社の公開画面は[こちら](#))

調査期間のうち、密度検層を実施する日は、当社ホームページの公開画面上にその旨を明記し、指示値が変動した場合には、速やかに同画面上でお知らせいたします。

なお、本調査に伴う外部への放射能の影響はありません。



※1 地下構造特性調査は、既往の調査結果の信頼性を確認するとともに、知見をより一層充実させるために実施していたもので、調査項目は、微動アレイ観測、微小地震観測、陸域・海域弾性波探査およびボーリング調査です。

※2 ボーリング調査は、地盤に孔をあけ(ボーリング)、地盤を構成する岩石などを観察して地質の状況を確認する調査です。また、このボーリング孔を利用して、PS検層等を実施し、地下構造特性を確認しています。

※3 密度検層は、ボーリング孔に放射線源を入れて、放射線源から放射されるガンマ線の散乱強度から、孔周辺の地盤の密度を測定するものです。

※4 モニタリングポストは、24時間連続で環境中の放射線を測定する設備で、発電所敷地内の7箇所ゝ設置されています。

※5 放水口モニタは、放水口からの放水の一部を取り出して放射性物質の濃度を連続して測定する装置で、1・2号機放水口、3号機放水口、4号機放水口および5号機放水口にそれぞれ設置されています。

以上